

ご意見（要旨）	本市の考え方
○学校の再編はなぜ必要か	学校再編の基本的な考えは、児童生徒にとってより良い教育環境を提供することです。義務教育段階の学校は、教科等の知識や技能の習得のみならず、社会的自立の基礎、社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、一定の集団規模（1クラス20人～30人でクラス替えができる規模）が確保された環境が必要と考えています。少子化・核家族化の進展により、児童・生徒の学びを支える教育環境の充実を図るため、適正規模の学校運営が必要です。
○地域コミュニティへの影響 学校には、児童生徒の学びの場のみならず、避難所、遊び場、地域のイベント会場など、地域住民の交流の場としての役割があります。しかし、学校の統廃合が行われることで、学校がなくなる地域もあり、本来学校が地域に対して担う役割が機能しなくなります。また、統廃合後の長距離通学により、地域住民と子どもたちが互いに触れ合う機会の減少も懸念されます。さらに、学区が変更になれば居住地以外の学校に通うことになるため、子どもたちの地域に対する思い入れが薄れ、地域と子どもの関係性が弱まることで、地域全体の衰退が進む懸念があります。	これまで学校が地域の中心的な役割を果たし、地域の避難所としての機能や地域交流の場として、地域コミュニティの核となっていることは認識しております。これらの機能は可能な限り維持し、他の公共施設としての再利用、地域や民間事業者による活用など、市全体での学校跡地の活用について地域住民との意見交換を継続しながら進めていく考えです。 また、地域の歴史や文化を学ぶふさと学習の実施や地域の方との交流会、探求学習で地域課題を考える機会を設けるなど、子どもたちが地域に愛着を持ち続けられるような工夫を行っていく考えです。
○児童・生徒への影響 身体的かつ精神的疲労のほか、教育面における弊害もたらされと考えられる。統廃合が行われれば、教育環境が大きく変わり、児童生徒の中には、新校舎や新しい集団への適応に対して精神的疲労を感じる子もいると思われる。バスによる長距離通学は、身体的疲労をもたらすだけでなく、それぞれの基礎体力の低下も招き、通学の時間が長くなれば児童・生徒は家庭学習や	学校の再編や通学距離の変化が児童・生徒に与える影響については、本市としても大変重要な課題であると認識しております。 特に、新しい集団での人間関係づくりに不安を感じる児童・生徒がいることや通学時間の延長による身体的・精神的な負担、放課後の時間の減少による学習や遊びの機会の制限など、多面的に影響が考えられます。 これらの点を踏まえ、以下のような対応策を検討・実施してまいりたいと考えております。

習い事にかかる時間の確保が難しくなり、個々の能力を伸ばそうとする機会が失われることにもつながりかねない。さらに、学校の規模が大きくなることで、学校行事における一人一人の出番が少なくなり、個々の自主性や自立性が育たなくなる恐れもあると考える。	1. 新しい集団へのスムーズな適応支援 スクールカウンセラーの配置による心理的なサポート体制や学校間の連携を深めるとともに合同授業や行事などを通じて子どもたちが新しい友達と安心して関われるよう支援します。 2. 通学バスの安全性や快適性の確保、バス内での過ごし方への配慮など、負担を最小限にする工夫を行い、基礎体力の向上のため、体育の授業の充実や朝や休み時間の運動習慣の促進、バス停の位置を工夫するなど、様々な対策を組み合わせることで、健康的な生活習慣を維持できるようにしていきます。 3. 学習・活動時間の確保 通学時間の延長が学習や活動に支障をきたさないよう、時間割や放課後活動の見直しも含め、柔軟な運用を検討します。 4. 一人ひとりを大切にする教育の継続 学校規模が大きくなることで個々への配慮が行き届かなくなるとの懸念については、少人数指導の充実などにより、子ども一人ひとりの成長に目が届く体制を整えてまいります。 また、市内の小中学校を再編し、1つの学校になった場合、今の想定で、1学年3～4クラスとなり、文科省の基準による適正規模校になる予定です。一定規模の集団生活を送れる環境を整えることで、児童・生徒に社会性を身に付けることや個々の自主性や自立性を育てることにつながると考えております。
---	--